

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3611610035		
法人名	医療法人 照陽会		
事業所名	笠井病院グループホーム		
所在地	徳島県阿波市阿波町元町7-1		
自己評価作成日	令和2年9月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和2年10月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者や家族と信頼関係を築けるよう努め、円滑な関係を保てるようしている。また、一人ひとりが安心して自分のペースで過ごせるよう支援している。敷地内に、同一法人が運営している医療機関があるため、365日24時間連携をとる事ができ、緊急時の迅速に対応できる体制を整えている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、同一敷地内に協力病院や通所リハビリ事業所が併設し、緊急時における対応など、医療面での連携体制を整えている。全職員で検討した、“利用者の意思や人格を尊重し安心・安全な生活を提供いたします”という理念を掲げ、申し送りやミーティングの際に共有化を図るとともに、日ごろの支援に反映している。理念に基づいて、花壇・プランターの草取りや洗濯物をたたむなど、利用者の意思や人格を大切に捉え、本人のやりたいことやできることを尊重した支援に取り組んでいる。誕生会や季節ごとの行事の際の食事は、一つひとつ手づくりすることで、利用者の思い出に残るよう工夫している。また、新型コロナウイルス感染症の流行下で、外出支援が難しいなかでも、敷地内を散歩する機会を増やすなどして、利用者が閉塞感を感じることをないよう取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			笠井病院グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に理念を提示し、職員間で共有している。利用者が安心して穏やかに、また楽しみを持って生活できるよう支援している。	事業所では、地域密着型サービスの意義を踏まえ、全職員で検討した理念を掲げている。申し送りやミーティングの際に理念に立ち返り、職員間での共有化を図っている。職員は、理念に基づき、本人本位の支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の民生委員やボランティア、近隣の理美容師の訪問がある。地元の祭りに参加したり、ホームの行事に参加していただき交流の機会を持つようになっている。	事業所には、日ごろから、近隣住民やボランティアなどの来訪がある。地域の祭りやイベントに利用者とともに参加し、地域と交流している。感染症（コロナ等）の流行下においても、併設の他サービス事業所の職員のボランティア訪問を受けたりするなど、交流が図れるよう工夫している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の行事に地域の住民やボランティアの方に参加していただき交流を図っている。随時、事業所の見学も受け付けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催していたが、現在、コロナ感染防止の影響で開催が休止している。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議には、利用者家族や民生委員、地域包括支援センターなどの出席を得ている。会議では、活動状況などを報告し、出席者から意見や情報等を得ている。現在は、感染症の流行に伴い、職員間で会議を行い、文書で報告することを検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	機会あるごとに市町村担当者に報告、連絡、相談している。また、運営推進会議に出席いただき、提案や助言をいただいている。	管理者は、毎月、市の担当窓口を訪問し、申請や実績報告等を行っている。感染症の流行下における事業所の取り組みや各会議の実施方法等について、担当者からアドバイスを受けるなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除宣言を事業所内に提示し、日頃から身体拘束の弊害を話し合い拘束をしないという思いでケアに取り組んでいる。	事業所では、身体拘束に関するマニュアルを作成し、定期的に見直している。職員は、施設内外の研修会等に参加し、身体拘束の内容や弊害について理解している。利用者を尊重しつつ、自由な暮らしの支援に向けて取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から言葉遣いや対応に気をつけている。高齢者虐待防止の研修を行い、虐待のない、また見過ごされることがない環境作りにも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			笠井病院グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について学ぶ機会を持ち、関係者と連携し、権利擁護を必要とする方が制度を活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や契約解除の際は、十分な説明を行い同意を得ている。不安点や疑問点を聞き、納得を得た上で手続きを進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や表情から思いを把握できるよう努めている。また、家族から意見や要望を気軽に話してもらえるような雰囲気作りを心がけている。	職員は、日ごろの利用者との会話や表情の変化から、思いや意向などの把握に努めている。事業所は、感染症の流行下においても家族の来訪を受け入れている。来訪時には、意見や要望等を出しやすい雰囲気づくりに努めている。出された意見等について協議し、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、日頃から現場の職員とコミュニケーションを図り、職員から提案された意見に耳を傾け、検討した上で運営に反映している。	管理者は、ミーティングや勉強会を開催し、職員からの意見や提案をききとっている。日ごろの支援においても、職員一人ひとりが意見を表出しやすい関係づくりに努めている。職員の特技などを運営面に反映し、意欲を持って働くことができるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員と日頃からコミュニケーションを図り、個々の努力や実績を把握し、やりがいを持って働けるよう現場の環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や現場の職員が向上心を持って働けるよう、資格取得や研修参加への支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会があり、相互訪問や情報交換を行い、日々のケアやサービスの質の向上が図れるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			笠井病院グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する際、本人の要望や不安等をよく聞き、把握した上で説明を行い本人や家族によく検討していただき納得いただいた上で、サービスを導入するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の考えや要望を聞き、相手の立場にたって考え、どのような対応ができるか話し合いを行っている。電話での相談も随時行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いを受け止め、お聞きした情報や要望をもとに支援を行っている。入居するという選択が、本人や家族にとって最善かどうか検討し、必要に応じて他の選択肢の提案を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員が日々過ごしていく中で、喜怒哀楽を共にすることで、互いの気持ちを伝えている。本人のできる事はしていただき、できない事を一緒にすることで、共に支え合う関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来訪時には、日頃の状況を伝え情報交換を行っている。本人が不安を感じている時には、家族と協力して支援している。家族間においても良好な関係が保てるように配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や近隣、友人などの来訪がある。日頃から来訪しやすくと感じていただけるような雰囲気作りに努めている。	事業所では、利用者や家族、関係者などからのききとりによって、本人の人間関係や社会関係等を把握している。感染症の流行下において、家族の来訪時に短時間面談できるようにしたり、携帯電話を活用したりして、馴染みの関係が途切れないよう工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係を把握し、良好な関係を保てるよう、職員が調整役となって支援している。利用者の状況に応じて、席替えを行い、トラブルがないように対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			笠井病院グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	やむを得ず入院に至った利用者には、面会を行ったり、家族や医療機関から近況報告を受け、相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の生活で関わりながら、本人や家族の思いをくみ取れるように努め、常に本人が選択できるように意識して声かけを行っている。	職員は、日ごろの利用者とのかかわりのなかで、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。花壇の草取りや洗濯物を畳むなど、利用者のやりたいことやできることを大切に与えて支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の関わりの中で気づいた言動を記録している。家族や在宅時、担当されていた介護支援専門員より情報提供を受け、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の生活の様子から、その時々的心身状態や能力を把握し対応できるよう、また、利用者の細かな変化に気づけるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃から本人や家族から意見を聞き情報を得るようにしている。その際、得た意見や情報を介護計画書に反映し、利用者の状態に応じて介護計画書を作成し、状態に応じて見直しを行っている。	事業所では、利用者や家族等の意見を踏まえた介護計画書を作成している。計画作成の際は、本人のことに着目している。定期的なモニタリングや半年ごとの見直しにより、現状に即した計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルに、日頃の様子や変化を記録し、職員間で共有し、状況に応じた対応ができるよう支援を行い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族から要望を聞き、状況に応じて買い物介助や歯科往診依頼、訪問理容など、必要に応じて支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			笠井病院グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地元の民生員に出席を依頼し連携をとっている。散髪は、地元の理美容師が訪問してくれ、低料金で散髪をさせていただいている。馴染みの美容師を利用される方もおられる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、かかりつけ医を確認し、馴染みの医師による継続的な医療を受ける方、認知症の専門医を受診される方等があり、個人の希望により適切な医療が受けられるよう支援している。	事業所では、利用者や家族等の希望するかかりつけ医の受診を支援している。週3回の訪問診療や看護師による体調管理も行っている。また、重度化や緊急時には、24時間対応可能な体制を整え、利用者や家族等の安心に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同一法人の運営している医療機関と24時間連絡がとれる体制となっており、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関に情報提供を行っている。また、入院中は状況に応じてお見舞いに行ったり 家族と連絡をとり経過の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、本人や家族に終末期に関する事業所の方針を説明し同意を得ている。家族の意向に沿いながら、状況変化に応じて修正が可能である事も家族に理解していただいている	事業所では、契約時の段階で、重度化や終末期における方針について、利用者や家族等に説明し、同意を得ている。本人の心身状況の変化に応じて、かかりつけ医等と連携を図り、支援に取り組んでいる。看取り支援を行う際は、利用者の尊厳を大切に捉えている。サービスの質の向上に向けて、感染症の流行下における、マニュアルの作成やシミュレーションに取り組むことが望まれる。	今後は、感染症の蔓延等が予想されるなかで、より質の高いサービスの提供に向けて、事業所が対応できる具体的な支援について、関係者等とともに検討されることに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを作成している。また、同一法人に医療機関と24時間連絡のとれる体制となっており、迅速な対応ができるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、同一法人の病院と合同で消防署立ち合いのもと防災訓練を実施している。また、緊急持ち出し袋を準備し、玄関や居室に設置している。職員手作りの防災ずきんも準備している。	事業所では、年2回、同一法人が運営する併設の他サービス事業所や病院、地域の消防署などの協力を得て、避難訓練を実施している。災害時にすぐに避難できるよう、職員手作りの防災頭巾や持ち出し袋の準備、車椅子の利用者の居室内に避難用具を設置するなどの工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			笠井病院グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入職時に職員は個人情報の取り扱いに関する雇用契約書を取り交わしている。利用者一人ひとりの意志や人格を尊重し、声かけや対応について互いのケアを確認し共有化を図っている。	職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重した支援に取り組んでいる。日ごろの支援のなかで、誇りやプライバシーを損ねない声かけや対応を心がけている。事業所では、定期的に、プライバシーに関する研修会を開催し、職員間の意識の共有化を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意志や感情をうまく表現できない方もおられるため、表情から読み取ったり自己決定できるように声かけを行い支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、利用者一人ひとりの心身状況に配慮した上で、柔軟に対応し思い思いに過ごしていただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみ等は自己決定に基づいて支援している。日々の関わりの中で、本人の好みを把握し介助が必要な方はさりげなく手伝うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士の献立のもとに併設医療機関の厨房で作られた食事を、ホームの職員が個々の状態にあわせた形態にし提供している。個人の力量に応じて下膳を手伝っていただける方もおられる。	食事は、併設の病院でつくったものを提供している。日ごろのおやつや誕生日、行事食などは事業所内で行うことで、利用者の思い出に残るよう取り組んでいる。利用者一人ひとりの力量に応じて、下膳や調理など一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、栄養バランスを考慮して作成されている。職員は食事摂取量、水分量を記録し一人ひとりの状態を把握し、身体状況に応じて、声かけ、見守り、介助等を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前には、口腔体操を行っている。食後は、一人ひとりの状態に応じた口腔ケアの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			笠井病院グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄チェックを記録し排泄パターンが把握できるように努めている。トイレ誘導する場合は、さりげなく声かけを行い介助し、一人ひとりの自尊心を損ねないように支援を行っている。	事業所では、利用者ができる限りトイレで排泄できるよう支援している。チェックシートを活用し、一人ひとりのパターンやサインの把握に努めている。職員は、さりげない誘導やプライドを傷つけない対応を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中はリハビリ体操やレクリエーションを行い体を動かす機会をもうけ、食べ物や水分摂取に気をつけ、できるだけ自然排泄を促すように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望を尊重し、羞恥心や不安感に配慮した入浴を支援している。体調に応じて清拭や足浴に変更する場合もある。気持ちよく過ごしていただけるよう支援している。	事業所では、週に2日、入浴日を定めている。入浴拒否がある場合には、利用者一人ひとりの気持ちに寄りそい、声かけやタイミングを変えるようにしている。また、個別にシャンプーを用意したり、ゆず湯やしょうぶ湯などを行ったりして、入浴を楽しむことができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、体調に配慮しながら外気浴やリハビリ体操、レクリエーションで身体を動かす機会を持ち、夜間、安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員が内容を把握し、個別のケースで管理。食前に準備し飲み忘れや誤薬がないようにしている。体調の変化を報告し、医師や看護師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが楽しみを持って生活できるよう支援している。洗濯物をたたんだり、下膳を手伝ってもらう等、その方の力量の応じて生活の中で役割を持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事等で外出の支援を行っていたが、現在は、他病院への通院以外はコロナ感染防止の為、外出を控えており、その事が利用者のストレスにならないよう留意している。	事業所では、利用者の希望に応じて、弁当やおやつを持参して花見をしたり、菊人形を見に行ったりするなど、多様な外出支援に取り組んでいる。感染症の流行下においては、敷地内を散歩する機会を増やすなど、閉塞感を感じることをしないよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			笠井病院グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭管理は家族が行っている。社協の金銭管理サービスを利用されている方もおり、少額の金銭を本人が管理している方もおられる。職員は買い物支援など行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の要望に応じ、いつでも電話で話ができるよう支援している。個人の持参している携帯電話から知人や家族に電話されている方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、季節の花を飾ったり、壁紙を変えたりして季節感が味わえ、利用者が心地よく過ごしていただけるよう配慮している。	共用空間は、壁面に行事の写真や作品などを飾ったり、季節の花を飾ったりして、季節感を感じることができるようにしている。感染症の流行にともない、室内の消毒や清掃の回数を増やし、換気を心がけることで、利用者が安心して生活できる環境づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の好きな場所で、自由にくつろげるスペースをもうけている。一人ひとりが思い思いの場所で、過ごすことができるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や身の回りの物を持ち込んでもらうようにしている。入居前の生活状況とかけ離れないよう、居心地よく暮らす事ができるよう支援している。	居室の窓は広く、季節の移り変わりを眺めることができる。家具を自宅と同じ配置にしたり、趣味の品を持ち込んでもらったりして、利用者一人ひとりにとって、馴染みのある生活ができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体能力に応じて、ベットやポータブルトイレを配置し、安全に移動ができ、自立した生活が送れるよう支援している。		